

⑨ Knowledge Representation with Abstractive Layers for Information Retrieval

T・Koguchi(日立製作所, 日本)

発表要旨

データの内容及びそのデータの抽象的情報に関する知識の記述方式について述べる。この方式の目的は、情報検索システム内のデータの内容についての一般的な始点を提供することである。まず、データの内容をある種の意味ネットワークを用いて記述する。ここでは、データは格フレーム構造の形で表される。この意味ネットワークから抽出されたデータに関する抽象的な情報も意味ネットワークの形で記述する。抽象化は段階的に行われ、その過程で抽象層が作られる。各抽象層のデータは、層内及び層間で関係を持つデータとリンクによって結び付けられる。この方式でデータを記述しておくこと、情報検索システムにおいて、ユーザが要求した詳細度を持つ情報の内容を提示することによって、ユーザが意図する検索要求を作るのをシステムが助けることや、一般的なものから具体的なものまで、様々な検索要求に答えることや、類似性に基づいた検索を行うことができる。

質疑応答

質問：テキストの抽象化には様々な異なった方法が有り得るが、あなたのシステムでは数多くの抽象化を与えられたテキストから行っているのか。

回答：抽象化を行うにあたっては様々な視点が存在するが、その全てが重要であり有用であるわけではない。このため、システムは利用の履歴を取り扱い、不必要なものを忘れるためのなんらかのメカニズムを持つ必要がある。我々の研究の次段階では、その問題については考慮されていなかったが、今後考えていきたいと思う。